

全国で個人投資家説明会を実施

個人向けIR活動を強化

オリンパスは、個人投資家のみなさまに当社への理解を深めていただくため、説明会などのIR活動を定期的を実施しております。今年は7月に福岡、10月には北海道、愛知、京都と全国各地で個人投資家向け説明会を実施しました。今後も精力的に個人向けイベントの開催・参加を続けてまいります。



▲京都で実施した個人投資家向け説明会(10月)

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会・期末配当:3月31日 中間配当: 9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ	0120-782-031 (フリーダイヤル)

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について
住所変更、単元未満株式の買取等については、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払いについて
未払配当金の支払いについては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

OLYMPUS VISION

第147期 中間株主通信 2014年4月1日～2014年9月30日

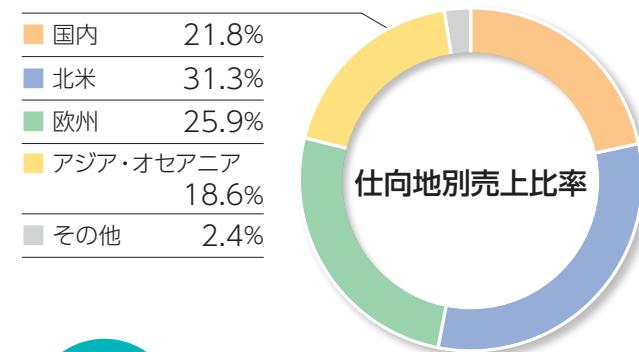
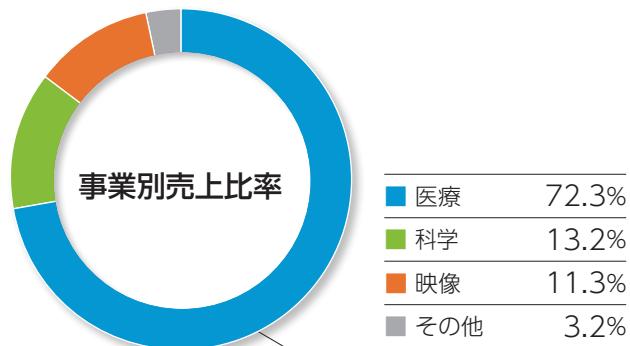
好調な医療事業が全社業績を牽引。
上半期営業利益は
リーマンショック以降最高益更新。

売上高 3,550 億円 前年同期 3,338億円 前年同期比 6.3% ↑

営業利益 384 億円 前年同期 285億円 前年同期比 34.8% ↑

経常利益 297 億円 前年同期 170億円 前年同期比 75.0% ↑

四半期純利益 223 億円 前年同期 △79億円 前年同期比 - ↓



上半期
ニュース

- 2014年 4月
- 5月 ● OLYMPUS OM-D E-M1が「カメラグランプリ 2014 カメラ記者クラブ賞」を受賞
- 6月 ● 第146期定時株主総会を開催
- 7月 ● 2014年内視鏡検査に関する意識アンケートキャンペーンを開始 ▶▶▶ 詳しくはP.9へ
- 8月 ● OLYMPUS OM-D E-M10とM.ZUIKO DIGITAL ED 12-40mm F2.8 PROが「EISA Award」を受賞
- 9月

CONTENTS

上半期ダイジェスト	1	事業部門別概況	11
ビジネスフォーカス	3	業績の推移	14
オリンパスニュース	7	連結財務データ	15
オリンパスの現場から	8	株主および会社の情報	17
医療トピックス	9		



映像事業の 医療事業を より一層加 改革を進めるとともに、 中心とした成長を 速らせてまいります。

代表取締役社長執行役員

笹宏行

Q 当上半期の業績についてご説明ください。

引き続き好調な医療事業が全社業績を大きく牽引しました。営業利益384億円はリーマンショック以降の上半期決算としては過去最高であり、前年同期比でも35%増と大幅な増益を達成することができました。

その医療事業は、主力の消化器内視鏡分野は、国内における消費税増税後の反動も少なく、海外では2012年に発売した「EVIS EXERA Ⅲ(イーヴィス エクセラ スリー)」等の販売が今期も好調に推移しました。外科分野ではエネルギーデバイス*「THUNDERBEAT(サンダービート)」が大きく販売を伸ばした他、外科内視鏡も泌尿器科をはじめとした各診療科領域で堅調でした。処置具分野も、海外のセールス体制を強化した効果が表れてきました。これら全分野が二桁の増収となり、売上高は前年同期比12%増の2,568億円、営業利益は11%増の546億円と、いずれも上半期で過去最高の業績となりました。

科学事業はマクロ経済の影響を強く受ける事業ですが、今期は景気の回復基調に伴い研究機関の予算執行や民間の設備投資が活発化しており、事業環境も改善しています。この結果、生物顕微鏡や工業用ビデオスコープ、非破壊検査機器といった製品が好調であり、売上高、営業利益ともに前年同期を上回りました。

*エネルギーデバイス：電流や超音波などのエネルギーを用いて外科手術を行う機器

映像事業は、市場の縮小に合わせてコンパクトカメラの販売台数を大幅に絞り込んだことにより、売上高は前年同期比15%減の401億円となりました。しかしながら、デジタル一眼の分野に限れば、主力の高級ミラーレスカメラ「OM-D」シリーズがご好評をいただいたことから、前年同期比21%増と販売を伸ばしました。特にミラーレスの販売強化を推進した欧米では大きく成長しており、米国は約20%、欧州は約55%の増収となりました。一方、営業利益はミラーレスの販売増に向けた取組みや、ファクトリー・オートメーション用カメラなどの企業向けビジネスへの投資が増加したことにより、営業損失が拡大することとなりました。

その他事業においては不採算であったバイオロジクス事業から撤退したことにより前年同期の赤字から今期は黒字に転換しました。また、営業外費用は有利子負債の圧縮により支払利息が減少したことから、特別損失は前年同期に計上した引当金等が今期は発生していないことから、それぞれ減少し、四半期純利益は前年同期の赤字から223億円の黒字に転換することができました。

Q 中期経営計画達成に向けた課題と今後の取組みを教えてください。

医療事業は、中期経営計画で掲げている2017年3月期の業績目標を達成するために成長を継続していく必要があります、

➔ 医療事業：長期的な成長に向けた『戦略投資』

戦略投資*の内訳(2015年3月期 1年間)	
人件費	90 億円 セールスを中心として、1,000名規模の増員
販売促進費	30 億円 主要マーケット(日・欧・米・中)を中心に積極投資
研究開発費	60 億円 将来の事業成長、事業拡大に向けた先行投資
合計	180 億円

※中期ビジョンには含まれていなかった追加投資金額

➔ 中期経営計画 連結業績目標

	2015年3月期 (見通し)	2017年3月期 (目標)
売上高	7,600億円	9,200億円
営業利益	880億円	1,430億円
経常利益	700億円	1,250億円
当期純利益	450億円	850億円

特に今後の成長ドライバーである外科分野を消化器内視鏡分野と並ぶビジネスに育て上げる必要があります。そのため、今期の重点施策として取り組んでいる戦略投資を下半期も強力に推進します。

売上拡大に向け、今期中に事業全体で約1,000名の増員を目指していますが、上半期で既に700名規模の増員を完了しており、要員強化は着実に進んでいます。販売促進、研究開発投資についても上半期は計画通りに進捗しており、下半期もこれを続けていきます。医療事業は製品の開発から販売に至るまでのプロセスが長く、投資の成果が業績に表れるまで時間のかかるビジネスですが、中期ビジョンの目標達成のみならず、その先のさらなる成長も視野に入れて積極的な投資を進めてまいります。

一方、事業再建に取り組んでいる映像事業は残念ながら

予定通りの収益改善を達成できておりません。赤字の主要因となっていたコンパクトカメラの縮小は功を奏し、収益性の高い高付加価値モデルにラインナップを絞ったことでコンパクトカメラの分野は黒字に転換しました。一方で、ミラーレス一眼の拡大については先ほど述べたとおり、OM-Dシリーズの販売促進による欧米市場の開拓には成功しましたが、逆にこれまでミラーレスの成長を牽引してきた日本・アジア市場が減速し、結果として上半期は売上目標を達成できませんでした。この状況を下半期で挽回するため、日本・アジアで人気の高いミラーレス「PEN」シリーズの新モデル「PEN Lite E-PL7」を9月に発売したのに加え、OM-Dシリーズのユーザーにアピールできる高価格帯のプロ仕様レンズのラインナップを拡充します。また、さらなる費用削減と合理化を進め、来期以降は収支均衡を達成できる事業構造を構築します。

🗨️ 最後に株主の皆さまにメッセージをお願いします。

この上半期中間配当を実施できなかったことについて、まずはお詫び申し上げます。期末配当については現時点では未定とさせていただいており、今期の最終的な損益等を見ながら改めて検討してまいります。早期の復配を目指して引き続き全力を尽くす所存ですので、株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



北米ブルックリン・パークに 新工場を設立

➡ 最大市場でエネルギーデバイス生産を増強

オリンパスは2012年に発表した中期ビジョンで、医療事業における外科分野の飛躍的成長を戦略の一つに掲げています。今期はこの戦略を推進するために大規模な投資を実施し、特に外科製品の最大市場である北米のセールス人員を増強するなど販売力強化を図っています。

こうした施策に伴う製品需要の拡大に対応するため、北米における外科製品の生産拠点の再編・整備も進んでいます。米国ミネソタ州のブルックリン・パークで今年度中に竣工予定の新工場は、外科手術に使用するエネルギーデバイスの新たな製造拠点となる予定です。分散していた生産機能を統合するとともに、製造エリアを従来の工場より拡張することで、エネルギーデバイスの生産増強と生産効率化を図ります。

エネルギーデバイスは外科分野の重要な戦略製品であり、医療事業の成長ドライバーです。製造・販売の両機能を強化し、将来的にコアビジネスの一つとして確立することを目指してまいります。

ブルックリン・パーク



▲建設中のブルックリン・パーク工場

オリンパスの現場から

オリンパス 研究開発センター
MST推進部

いまおか ゆか
今岡 由佳さん



世界初の原子間力顕微鏡技術を使った「BIXAM (ビグザム)」。その開発チームの一員として活躍する今岡由佳さんに話を聞きました。

世界初の画期的なコンセプトの装置づくりに携わる

オリンパスが世界で初めて実現した光学顕微鏡と一体化した高速原子間力顕微鏡「BIXAM」は、ナノレベルの生体分子の動きを速く正確に観察できることから、生命科学の最先端研究に活用されています。現在私は、この「BIXAM」の開発・製造チームの一員として、部品の購買調達や組立製造、さらにはサンプル用細胞の培養などを担当しています。

「BIXAM」の部品の多くは、取引先の職人さんにその都度削り出してもらう一点もので、必要な品質を確保するために先方との丁寧なコミュニケーションを心がけています。社内の購買企画部門の皆さんにも発注先や技術に関するアドバイスをいただいています。部品が揃うと組立に取りかかりますが、0.1ミリの誤差も許されない作業で極限の集中力が求められるため、1台を組み上げる約1ヶ月間は気が休まりません。組立に関しては社内の熟練技能者から多くのことを学んでおり、その仕事ぶりを見習おうと必死の毎日です。

いつか自分の製品を生み出したい

「BIXAM」チームに加わる際、上司からは「ももとの専門である機械工学の道を極め、将来的には新しい製品を生み出せる開発者になる。そんなキャリアプランを持って頑張ってみては」と声をかけられました。今の業務で携わっているさまざまな業務の経験が、将来設計開発者として良い仕事をする土台になると考えています。チームのメンバーは、専門性の高い開発に長年携わってきた「雲の上の人たち」ばかりで、そんな先輩たちと仕事ができる環境はかけがえのないチャンスだと感じています。

私の目標は、いつの日か胸を張って、「これが私の仕事の成果です」と誇れる製品を生み出すこと。そんな夢に向かって、地道に進んでいきます。

内視鏡検査ってどんなもの？ ホームページで情報を発信

オリンパスは、一般の皆様へ内視鏡検査や内視鏡による治療について理解を深めていただくため、健康応援ポータルサイト「おなかの健康ドットコム」を運営しています。当サイトは医師監修の下、消化器疾患や内視鏡に関する様々な情報を分かりやすく説明しています。

おなかの健康ドットコム

URL: <http://www.onaka-kenko.com/>

おなかの健康

検索

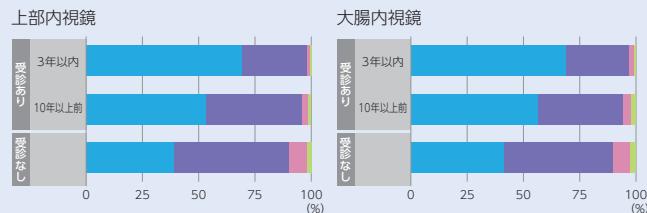


内視鏡検査に関するアンケートを実施

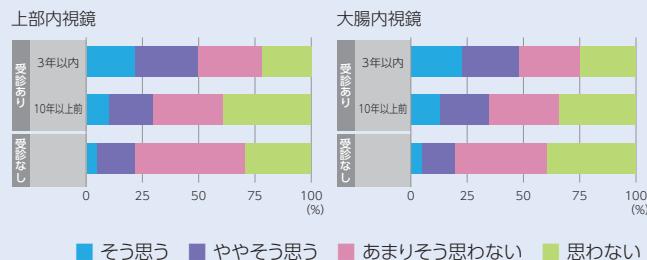
「おなかの健康ドットコム」では、2006年から内視鏡検査に関するアンケートを実施しています。2014年は7月11日から8月20日にかけて実施し、集計

アンケート結果(抜粋)

◆内視鏡検査のイメージ「安心できる」(受診の有無/受診時期別)



◆内視鏡検査のイメージ「つらくない」(受診の有無/受診時期別)



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

メッセージや意識を調査する「内視鏡検査に関する意識アンケート」を年1回結果を当サイト内で公開しています。その一部をここでもご紹介します。

受診経験あると「つらくない」イメージが上昇

今回のアンケートでは、内視鏡検査の安心感について、9割を超える大多数の方から「安心できる」との回答があったことや、内視鏡検査のつらさに対するイメージで、受診経験の有無や受診時期によって大きな差が出たことが特徴的でした。この結果について、内視鏡検査の専門医である田坂記念クリニック・山口芳美先生は次のように講評されています。

「内視鏡検査受診経験の有無に関わらず、約90%の方が「内視鏡検査は安心できる」と回答しています。内視鏡検査は腸内の粘膜表面を直接、詳細に観察できることに加え、早期であれば病変を取り除く処置も同時に行えるという大きなメリットがあり、そのことを理解されている方が増えているのかもしれない。」

一方、「内視鏡検査のつらさ」に対するイメージ調査では、内視鏡検査を受診したことがない人、受診していても10年以上前に受診した人が、「内視鏡検査がつらい」というイメージをより多く持っていることがわかりました。最近では、内視鏡機器そのものに加え、鎮静剤の使用を含めた検査技術の進歩により、「つらくない」と感じる人が増えていることの裏返しではないかと考えられます。「つらそう」という印象を理由に早期発見の機会を逃してしまうことのないよう、不安があれば、医療機関にお問い合わせいただくなどして、必要な場合にはきちんと検査を受けていただきたいと思います。



田坂記念クリニック 山口芳美先生

製品開発と啓発活動で心と身体を思いやる医療を

オリンパスは、画質と細さを両立したスコープなど、検査を受ける患者内視鏡製品を作ること、「おなかの健康ドットコム」を始めとした様々な今後も貢献してまいります。

実現

さんにとって負担の少ない製品開発を継続的に進めています。より良い形での啓発活動を続けていくことで、心と身体を思いやる医療の実現に

医療事業

内視鏡ビデオスコープシステム
 [EVIS LUCERA ELITE(イーヴィス ルセラ エリート)]
 観察性能、操作性・挿入性、業務効率のさらなる向上を
 目指した国内向け内視鏡ビデオスコープシステムの最
 上位機種



売上高

2,568 億円

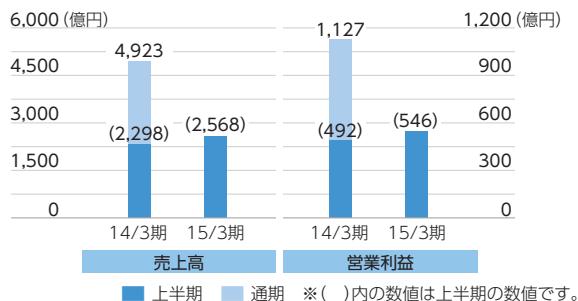
消化器内視鏡分野において国内外で主力の内視鏡基幹システムが販売を伸ばしたほか、外科・処置具分野では内視鏡統合ビデオシステム「VISERA ELITE (ビセラ・エリート)」やエネルギーデバイス「THUNDERBEAT (サンダービート)」が好調となり、増収となりました。

営業利益

546 億円

各分野製品の好調な販売による増収に伴い、増益となりました。

売上高・営業利益の推移



科学事業

※今期より、従来「ライフ・産業」としていた事業セグメント名を「科学」に変更しています。

工業用ビデオスコープ
 [IPLEX(アイプレックス) RX]

配管や航空機エンジンなど狭くて奥行きのある場所の検査に適した工業用ビデオスコープ
 独自の画像処理エンジンによりシリーズ最高画質を実現



売上高

467 億円

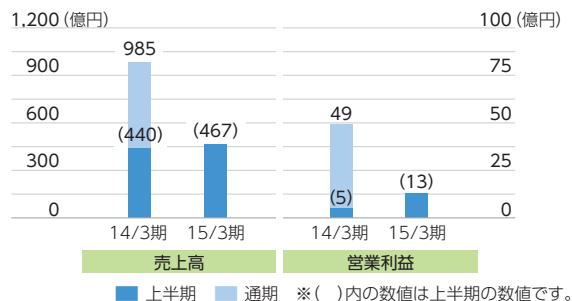
レーザー走査型顕微鏡「FLUOVUE (フロービュー) FVMPE-RS)や工業用ビデオスコープ「IPLEX RX」「IPLEX RT」といった製品が販売を伸ばしたことで、増収となりました。

営業利益

13 億円

増収に加えて販売拠点の統合等による費用圧縮を進めた結果、増益となりました。

売上高・営業利益の推移



映像事業

ミラーレス一眼
[OM-D E-M10]

小型軽量ボディに最先端技術を凝縮した「OM-D」シリーズのエントリーモデル一眼トップクラスの高画質、高解像、高感度を実現



売上高

401 億円

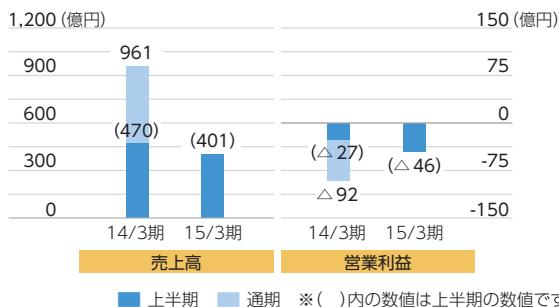
デジタル一眼の分野において、「OM-D E-M10」を始めとしたOM-Dシリーズが欧米で販売を伸ばしましたが、コンパクトカメラの分野において、市場の縮小に合わせて販売台数を絞り込んだことにより、映像事業全体の売上は減収となりました。

営業利益

△46 億円

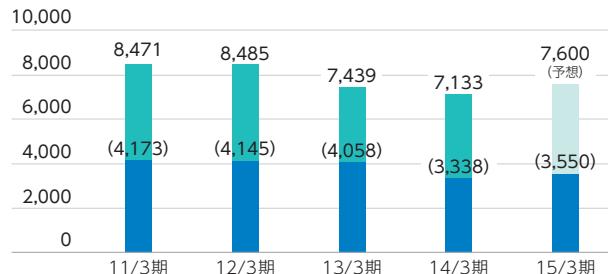
減収に加え、BtoBビジネスの拡大に向けた投資を実施したことにより、損失幅が拡大しました。

売上高・営業利益の推移



▼ 売上高の推移

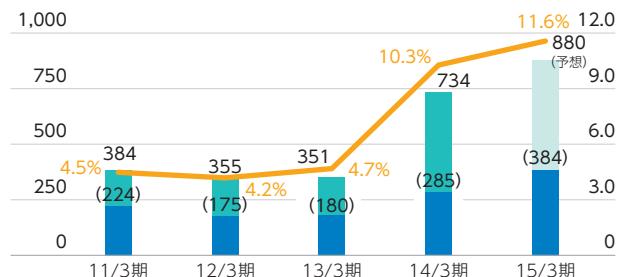
(単位: 億円)



13/3期の9月に情報通信事業を売却したことにより14/3期は減収となっていますが、この影響を除けば増収が続いています。

▼ 営業利益および営業利益率の推移

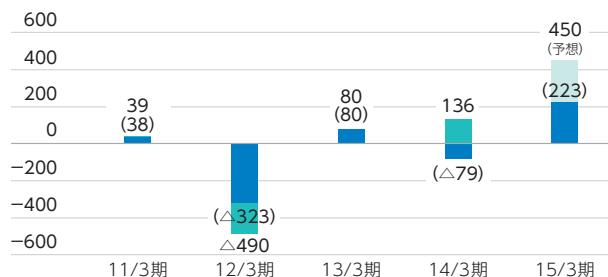
(単位: 億円)



利益率の高い医療事業の成長に加え、不採算事業の整理を進めたことにより前年同期比で大幅な増益となっています。

▼ 当期(四半期)純損益の推移

(単位: 億円)



大幅な営業増益に加え、営業外費用や特別損失が減少したことにより前年同期の赤字から黒字に転じています。

▼ 財務状況

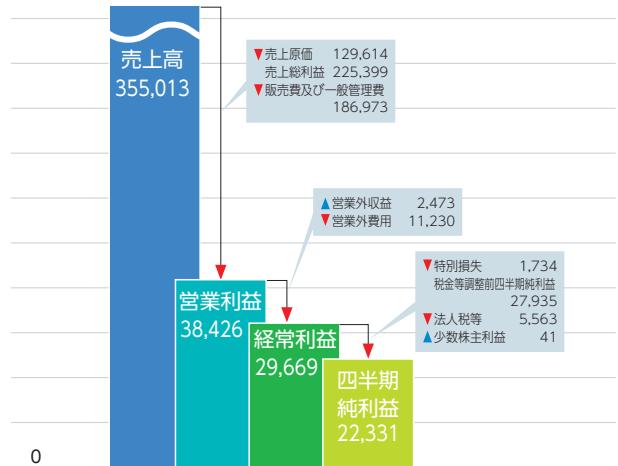
(単位:百万円)

14/3期 (2014年3月31日現在)		15/3期上半期 (2014年9月30日現在)	
流動資産	576,512	流動資産	543,856
固定資産	450,963	固定資産	463,135
資産合計	1,027,475	資産合計	1,006,991
14/3期 (2014年3月31日現在)		15/3期上半期 (2014年9月30日現在)	
流動負債	276,306	流動負債	274,570
固定負債	419,885	固定負債	359,484
純資産	331,284	純資産	372,937
負債純資産合計	1,027,475	負債純資産合計	1,006,991

▼ 損益の状況

(単位:百万円)

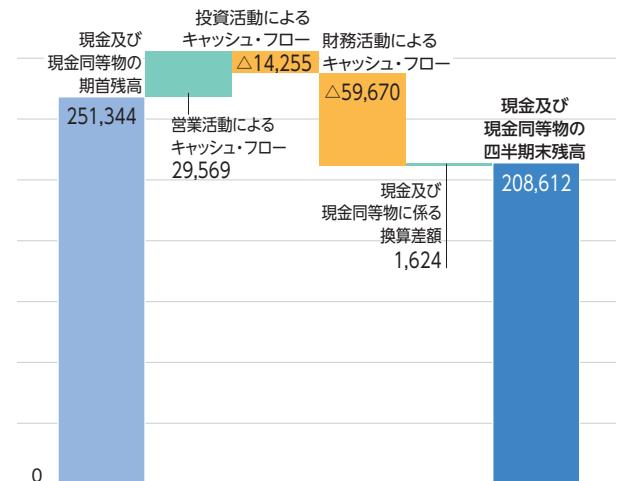
15/3期上半期 (2014年4月1日~2014年9月30日)



▼ キャッシュ・フローの状況

(単位:百万円)

15/3期上半期 (2014年4月1日~2014年9月30日)



©さらに詳しい財務情報は当社ウェブサイトにてご覧ください。

<http://www.olympus.co.jp/>

トップページ

「投資家情報」をクリック



Contents

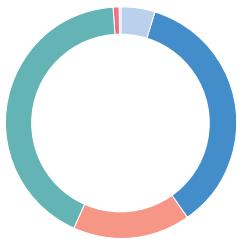
- 株主・株式情報
- 経営方針
- 業績
- IRカレンダー
- IR資料室

など

株式状況(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,000,000,000株
発行済株式総数	342,671,508株
株主数	24,460名

株式の分布状況(2014年9月30日現在)



個人その他等	4.99%	17,116,027株
金融機関	35.56%	121,866,374株
その他国内法人	16.26%	55,704,623株
外国人	42.21%	144,650,193株
証券会社	0.85%	2,901,818株
自己株式	0.13%	432,473株

大株主(2014年9月30日現在)

ソニー株式会社	34,487,900株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,769,300株
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー 505223	14,690,047株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	13,427,439株
日本生命保険相互会社	13,286,618株
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,286,586株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	11,729,400株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	11,404,000株
株式会社三井住友銀行	8,350,648株
テルモ株式会社	5,581,000株

会社概要(2014年9月30日現在)

設立	1919年10月12日
資本金	124,520百万円
従業員数	31,104人(連結) 2,799人(単体)
本店	〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号
本社事務所	〒163-0914 東京都新宿区西新宿2丁目3番1号 新宿モノリス (03)3340-2111(代表) http://www.olympus.co.jp/
事業場	八王子市(東京都)、上伊那郡(長野県)、 西白河郡(福島県)
支店	札幌、名古屋、大阪、広島、福岡
営業所	仙台、横浜、新潟、松本、静岡、金沢、松山
海外拠点	アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、シンガポールほか

役員(2014年9月30日現在)

取締役会長	木本 泰行	専務執行役員	田口 晶弘
代表取締役社長執行役員	笹 宏行	常務執行役員	小川 治男
取締役専務執行役員	藤塚 英明	常務執行役員	五味 俊明
取締役専務執行役員	竹内 康雄	常務執行役員	境 康
取締役常務執行役員	林 繁雄	常務執行役員	窪田 明
社外取締役	後藤 卓也	執行役員	西垣 晋一
社外取締役	蛭田 史郎	執行役員	唐木 幸一
社外取締役	藤田 純孝	執行役員	川田 均
社外取締役	西川 元啓	執行役員	正川 仁彦
社外取締役	今井 光	執行役員	川俣 尚彦
社外取締役	藤井 清孝	執行役員	古閑 信之
社外取締役	鶴 静恵子	執行役員	矢部 久雄
社外取締役	加藤 優	執行役員	半田 正道
常勤監査役	斎藤 隆	執行役員	阿部 信宏
常勤監査役	清水 昌	執行役員	吉益 健
社外監査役	名古屋 信夫	執行役員	北村 正仁
社外監査役	名取 勝也	執行役員	小林 哲男
		執行役員	平田 貴一
		執行役員	大久保 俊彦
		執行役員	彦坂 充洋